

肝切除後の肝細胞癌患者における炎症マーカーの予後に関するメタアナリシス
修士課程1年 武穎

【概要】

すべての癌の中で、肝細胞癌（HCC）は罹患率が6番目に高く、死亡率が2番目に高いため、全部の人間の健康にもものすごい脅威を与えている。現在、HCCの主要な治療戦略には肝移植、肝切除および高周波アブレーション（RFA）が含まれている。しかし、無数のHCC患者は依然として、再発、不十分な治療結果などを含む予後不良に苦しんでいる。価値のある予後因子を探索し、HCCの予後を正確に予測することは、その後の臨床管理を導き、個性化される治療法を確立する上で大きな可能性をもたらす。Ki67、AFP、組織病理学等級、病期、微小血管侵襲、カプセル形成、腫瘍サイズなどを含むいくつかの組織病理学マーカーの臨床的可能性は、広範囲にわたって研究されている。

近年、炎症性および免疫性の微小環境は、癌の形成および進行の各段階において重要な役割を果たしていることを明らかにした。白血球、特にリンパ球は、腫瘍免疫微小環境における炎症反応の反映として、がんの進行を予測する有効な指標として報告されている。最近の研究では、好中球-リンパ球比（NLR）と血小板-リンパ球比（PLR）がHCC患者の予後を予測できることが示されている。しかし、NLRとPLRが肝切除後のHCC患者の予後を予測できるかどうかは議論がある。

このメタアナリシスの目的は、肝切除術を受けた肝細胞癌（HCC）患者における炎症マーカーの予後に対する役割の有効性を検討することである。

【参考文献】

Liu L, Gong Y, Zhang Q, Cai P, Feng L. Prognostic Roles of Blood Inflammatory Markers in Hepatocellular Carcinoma Patients Taking Sorafenib. A Systematic Review and Meta-Analysis. *BioMed research international* 2019;9:1557.

Wang D, Bai N, Hu X, et al. Preoperative inflammatory markers of NLR and PLR as indicators of poor prognosis in resectable HCC. *PeerJ* 2019;7:e7132.

Forde J, Milla E, Khan W, Cabrera R. Utility of inflammatory markers in predicting hepatocellular carcinoma survival after liver transplantation. *BioMed research international* 2019;2019.